

2020年度冬期の電力需給ひっ迫・市場価格高騰に係る検証中間取りまとめのポイント（案）

事象の要因

需給ひっ迫の要因

- 断続的な寒波による電力需要の大幅な増加とLNG供給設備のトラブル等に起因したLNG在庫減少によるLNG火力の稼働抑制が主因。
- 背景には、石油火力の休廃止や稼働中原発の減少といった供給力低下が構造的に存在する一方、水力の利用率低下、太陽光の発電量変動を補う調整力の重要性向上といった背景もあり、火力に依存した供給構造が存在。

市場価格高騰の要因

- 需給ひっ迫に伴い、電力市場において、売り切れ状態が継続的に発生し、スパイラル的に買い入札価格が上昇。
- 電力・ガス取引監視等委員会において、大手電力会社への報告徴収や公開ヒアリング等を通じた検証が行われたが、相場を変動させることを目的とした売り惜しみ等の問題となる行為は確認されなかった。

教訓を踏まえた主要対策パッケージ

需給ひっ迫への対策

- 夏冬の需要ピーク時に kWh(燃料)不足リスクを含めた需給検証を実施するとともに、燃料の確保状況をモニタリングする仕組みを導入。
- 国発電事業者等による望ましい燃料確保の在り方を示す「燃料ガイドライン（仮称）」を策定。
- 燃料不足が懸念される際に、「警戒対応体制」を構築し、事業者間の融通の円滑化や需要家への働きかけを実施。
- 「でんき予報」において、kWの情報だけでなく、kWh情報の発信を追加するなど、情報発信を拡充。

市場価格高騰への対策

- 市場の信頼性を高めるための情報開示の充実や、スポット市場への適切な売り入札を促すための監視を強化。
- 先渡・先物市場など、事前に電力を取引するための市場のオークション回数の増加、拠出金の低減、普及啓発などのヘッジ市場活性化策を実施。
- 市場のスパイラル的な買い入札価格の上昇を未然に防ぐため、市場のセーフティネットを導入（精算金の上限価格を80円/kWh、200円/kWhの2段階で設定）。
- 一般送配電事業者の精算金（インバランス）収支については、託送料金等を通じて還元・調整の措置を講じる。FIT収支余剰についても、国民還元を実施。

予防対策
（来冬までに措置）
緊急時対策

構造的対策

- 容量市場により安定供給に必要な供給力を確保しつつ、カーボンニュートラルとの両立に向け、非効率石炭フェードアウトを着実に進めるとともに、新規投資の予見性を高める措置を検討。
- 広域的融通の強化に向けた系統整備に向けたマスタープランの策定や、既存システムを最大限活用するための措置を実施。

- 小売事業者等による適切な市場リスク評価・管理の在り方を示す「リスクマネジメントガイドライン（仮称）」を策定。
- 今冬の市場価格高騰を巡り様々な課題が提起されたことを踏まえ、支配的事業者の発電・小売事業の在り方について検討を進める観点から、電取委において、旧一電の内外無差別な卸売の実効性を高め、社内・グループ内取引の透明性を確保するためのあらゆる課題について、総合的に検討。